

CLIPPEDIMAGE= JP358161068A

PAT-NO: JP358161068A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 58161068 A

TITLE: AUTOMATIC AUCTION MACHINE

PUBN-DATE: September 24, 1983

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TAKAHASHI, TAKATSUGU

MAEJIMA, NOBUYUKI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

TOUKIYOUTO CHIYUUKOSHIYA OROSHIURI

JIGIYOU KYODO KUMIAI

FUJITSU KIDEN LTD

COUNTRY

N/A

N/A

APPL-NO: JP57043782

APPL-DATE: March 19, 1982

INT-CL (IPC): G06F015/21;G07C013/00

ABSTRACT:

PURPOSE: To make the judgment of circumstances for a seller easy and to reduce the probability of unsuccessful bidding to operate an automatic auction machine efficiently, by providing means where a desired selling price and a market price are displayed respectively, a means where the state of bidders is displayed, and a clearing button which cancels the desired selling price.

CONSTITUTION: The desired selling price of an article to be sold by auction is inputted from an input device 41 of a desired price set device 4 and is stored in a desired selling price memory 36 of an auction machine

body 3', and the price set is detected by an input detecting circuit 382 to set an FF 38. Contents of the memory 36 and an auction price in a price memory 35 are compared with each other in a comparing circuit 37; and when the auction price is lower than the desired selling price, the FF 38 is reset through an OR circuit 381. Contents of the memory 36 are inputted to a driving circuit 341 of a desired price monitor 43 and is displayed on the monitor 43; and the market price is inputted to a market price monitor 44 from a driving circuit 342 and is displayed. Circumstances of bidding are displayed on bidding circumstance monitor 45 to reduce the probability of unsuccessful bidding.

COPYRIGHT: (C)1983,JPO&Japio

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—161068

⑬ Int. Cl.³
G 06 F 15/21
G 07 C 13/00

識別記号

庁内整理番号
6619—5B
8109—3E

⑭ 公開 昭和58年(1983)9月24日

発明の数 1
審査請求 有

(全 4 頁)

⑮ 自動せり機

稲城市矢野口1776番地富士通機
電株式会社内

⑯ 特 願 昭57—43782

⑰ 出 願 人 東京都中古車卸売事業協同組合
東京都足立区大谷田4丁目9番
18号

⑱ 出 願 昭57(1982)3月19日

⑲ 発 明 者 高橋隆次
東京都足立区大谷田4丁目9番
18号東京都中古車卸売事業協同
組合内

⑳ 出 願 人 富士通機電株式会社
稲城市矢野口1776番地

㉑ 発 明 者 前島伸行

㉒ 代 理 人 弁理士 松岡宏四郎

明 細 書

1. 発明の名称

自動せり機

2. 特許請求の範囲

売手の操作する端末機として、販売希望価格を
表示する手段、市場価格を表示する手段、応札者
の状況を表示する手段および販売希望価格を取消
するためのクリア釦を設けたことを特徴とする自動
せり機。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の技術分野〕

本発明は、自動せり機に関し、特に、商品売手
用の操作端末機とその制御に関するものである。

〔技術的背景〕

せり市場においては、多数の商品が取扱われ、
その取引は、売手と買手との間で公正かつ迅速に
行われることが望まれる。

ところが売手がいつも熟練者とは限らず、操作
ミスを犯すとせっかくの商取引に無駄を生じること
になる。

そこで、熟練者でなくとも容易に操作できる自
動せり機が要望されてきた。

〔従来技術と問題点〕

第1図は、従来の自動せり機を示し、特に、売
手の扱う端末機、買手の端末機およびそれらを制
御するせり機本体の要部を示す。

この第1図において、11～1nは買手の操作す
る端末機であり、この端末機11～1nには、各買
手は、自己のコード番号が付与されたカードを差
し込む。

このカードには、コード番号に応じて実装され
たダイオード回路111が設けてある。又出品商
品に対し、図示せざる電光掲示盤に表示された価
格で応札する場合押す応札釦が112である。

2は売手の操作する端末機であり、21はその
応札釦である。

3は、せり機本体であり、選択回路31の駆動
トランジスタ311～31nを順次駆動し、端末機
11～1nを走査する。

そして、買手が応札釦112を押していれば、

買手用応札部読取回路33でそれを検出すると共にカード読取回路111で読み取ったコード番号をセンス回路32に受信する。

又、売手が応札部21を押していれば、売手用応札部読取回路34でそれを検出する。

かかる装置において、出品商品に対し、先ずせりスタートの価格が提示され、それに対する応札者は、応札部112を押す。又、売手も価格をつり上げるため応札者の1人として応札部21を押す。

そして、これら応札部112、21が複数押されていることを応札部読取回路33、34で知るとせり機本体は図示せざる表示用のせり価格を一定額上昇して再び価格表示を行う。

この様に、せり価格はどんどん上昇し、最後に1人の応札者しかいなくなったとき、その応札者に対し、落札される。

そこで、その最後の1人が、売手であれば実質的には流札であり、買手であれば、その買手に対し、最終せり価格で商品の引渡しが行われる。

第2図は、本発明の一実施例であり、第1図と同一符号は同一機部を示す。

ここで、第1図と異なるのは、売手用の端末機2を希望価格セット装置4に置き替え、それに応じて、せり機本体3'に開遮制御回路を設けた点である。

即ち、売手は、出品商品に対し、販売希望価格をテンキーより成る入力装置41からせり機本体3'に入力する。

この価格は、販売希望価格メモリ36に格納されると共に、入力検出回路382で価格入力があったことを検出し、フリップフロップ38をセットする。このフリップフロップ38の出力は、端末機11~12の応札部112と同じに扱われる。即ち、フリップフロップ38がセットされていると、応札部を押した状態として検出される。

そして、販売希望価格メモリ36の内容と、従来より有しているせり価格メモリ35(このメモリの価格が前述の電光掲示板に表示される)の内容とが比較回路37で比較され、せり価格が、販売

ところが、売手は往々にして、その商品の一般市場価格に精通していない場合があり、応札部21の押下を止める時期の判断が難しい。又、スピーディなせり運用に対し気の迷いから応札部21を長く押し過ぎたり、操作ミスを犯しやすい。

そこで、せっかくの販売機会を逃してしまい、売手側、買手側双方にとって無駄な取引となることがあった。

(発明の目的)

本発明は、かかる欠点に鑑み、売手が冷静に判断でき、強力販売機会を取逃がすことのないようにすることを目的とする。

(発明の構成)

本発明は、上記目的を達成するために、売手の操作する端末機として、販売希望価格を表示する手段、市場価格を表示する手段、応札者の状況を表示する手段および販売希望価格を取消すためのクリア部を設けたことを特徴とする自動せり機を提供したものである。

(発明の実施例)

希望価格以上になると、オフ回路381を介してフリップフロップ38をリセットする。

又、クリア部42を押すと、販売希望価格メモリ36の内容がクリアされると共に、オフ回路381を介してフリップフロップ38をリセットする。一方、販売希望価格メモリ36の内容は、希望価格モニタ43の駆動回路341に入力され、希望価格モニタ43でその値が表示される。

又、市場側での調査に基づき、標準的な市場価格、例えば、最近数ヶ月間の取引実績価格を入力することにより、駆動回路342より、市場価格モニタ44にその市場価格を表示する。

更に、せり機本体3'で検出した応札部の押下状況は、駆動回路343により、応札状況モニタ45のランプ点灯数により表示する。そこで、売手はせり進行過程において、希望価格モニタ43、市場価格モニタ44およびせり価格の三者の価格関係を見ながら、かつ応札者の数がどの様に変化しているかを応札状況モニタ45で知ることができ

そこで、例えば、せり価格が販売希望価格以下であっても、市場価格以上であったり、買手による応札者の数が極めて少なく、1人か2人程度になってくると、販売価格の段々ピークに達していることが判り、クリア釦42を押すことができる。

このクリア釦42を押すと、前述の通り、買手の応札のみでせり価格が上昇し、最後まで応札釦112を押していた買手にその商品が落札され、流札になることが防げる。

又、多数の応札者によりせり価格がどんどん上昇し、販売希望価格以上になると自動的にフリップフロップ38がリセットされて、買手の応札のみでせり価格が上昇し、この場合も、最後まで応札釦112を押していた買手にその商品が落札される。

〔発明の効果〕

以上、本発明によれば、売手が市場価格を認識でき、希望価格を取消す時点の判断がし易く、又、応札状況を知ることでも希望価格を取消す時点の判断がし易い。

更に、前もって希望価格をセットしているため、せり運用時に誤操作による応札釦の押し続けはなくなる。

これにより、流札の可能性が少くなり効率的なせり運用ができると共に、せりの一件当たりの処理時間も早くすることが可能となる。

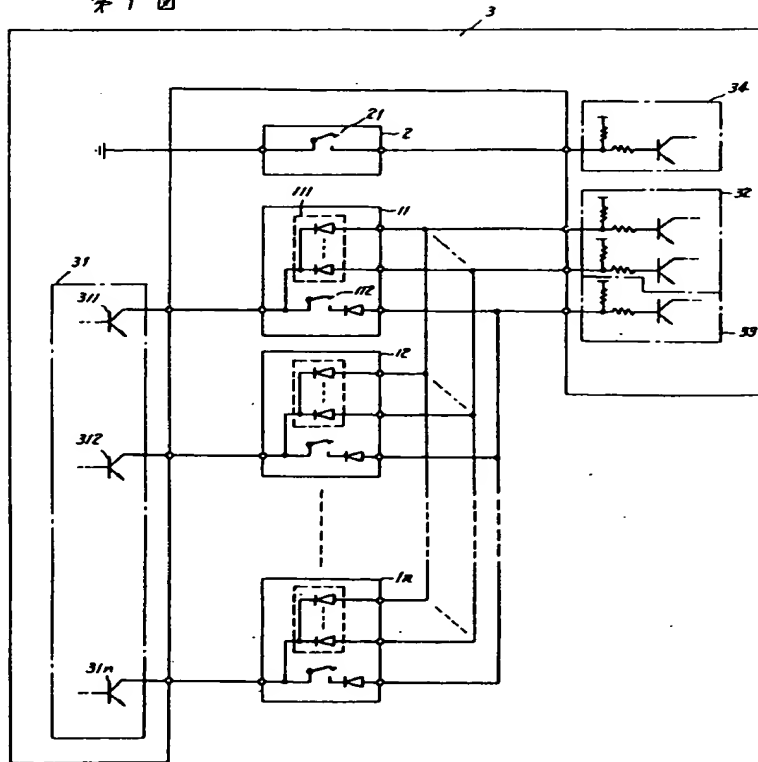
4. 図面の簡単な説明

第1図は従来の自動せり機、第2図は、本発明の一実施例である。

図中、11~1nは端末機、3、3'はせり機本体、4は希望価格セット装置、41は入力装置、42はクリア釦、43は希望価格モニター、44は市場価格モニター、45は応札状況モニター、35はせり価格メモリ、36は販売希望価格モニター、37は比較回路、38はフリップフロップ、112は応札釦である。

代理人 弁理士 松岡 宏四郎

第1図



第2図

